

秘

海軍公報號外(郵便)

昭和二十年五月十日(木) 海軍大臣官房

○通牒

官房軍機密第三二〇號ノ四

昭和二十年五月九日

各廳長殿 海軍省副官

郵便物ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十九年官房備機密第三二八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中ニ

對	潛	訓練	隊	ウ六〇五
第十	七	突撃	隊	ウ六〇六
第十	六	突撃	隊	ウ六〇七
第十	七	警備	隊	ウ六〇八
第十	五	突撃	隊	ウ六〇九
第四	特	攻戰隊司令部		ウ六〇〇
神	池	防空隊		ウ六〇壹

秘海軍公報號外(郵便)

殘

留

隊

第二十一	聯合航空隊司令部	ウ六壹參
第二十三	聯合航空隊司令部	ウ六壹四
第二十四	聯合航空隊司令部	ウ六壹五
第二	〇五航空隊	ウ六壹六
第三	千十九設營隊	ウ六壹七
第三	千百十四設營隊	ウ六壹八
第三	百三十九設營隊	ウ六壹九
第三	百五十三設營隊	ウ六貳〇
第三	千二十設營隊	ウ六貳貳

ヲ加フ

同

(其ノ三)中ニ

沖繩	根據地隊水雷射擊隊	イ貳參九
中	支航空隊	イ貳四〇

第三十一	一	輸送隊	イ貳四登	第三千二百十四	設營隊	イ貳四四
第一七	一	航空隊	イ貳四貳	第三千二百十五	設營隊	イ貳四五
第十	警備隊	イ貳四參				
ヲ加フ						

○發送先

- 第一〇二一航空隊
- 西海航空隊宇佐派遣隊
- 第九〇一航空隊博多派遣隊
- 戰團第三一三飛行隊
- 攻擊第三飛行隊
- 第三千九十九設營隊
- 第三千百十四設營隊
- 第一〇一事務所
- 第六海軍補充部
- 出張所

司令、軍醫長、隊宛  
主計長宛  
追テ分隊行動ノ機會多キニ付各艦ニ關係アルモノハ寫一通各  
驅逐艦長宛、給與關係ハ各艦分任出納官吏宛送付相成度  
(第四十一驅逐隊)

○雜款

佐世保局氣付 冬 月  
佐世保局氣付 涼 月

○郵便物再送ノ件  
昭和二十年三月一日以降三月末日迄ノ本艦宛郵便物ハ事故ニ依  
リ亡失セルニ付左ニ依リ再送相成度  
鎮海警備府氣付 第六十七號海防艦  
(第六十七號海防艦)

秘

海軍公報 第五〇〇八號

昭和二十年五月十一日(金) 海軍大臣官房

○告示

海軍省告示第一號ノ九

大正十一年海軍省告示第五號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年四月二十日

海軍省告示第一號ノ一〇

吳鎮守府軍法會議ヲ第二艦隊軍法會議ニ移轉シテ持テ

昭和二十年四月二十日

○令

官房機密第一二九四號

大東亞戰爭中所屬以外ノ鎮守府又ハ警備府ノ警備區内ニ常駐スル部隊、同區域内ニ在ル學校(特設部隊、分遣隊、派遣隊、訓練所、分校等ヲ含ム)等ニ對スル兵器供給所管海軍軍需部ハ兵器經理規程第十二條及其ノ他ノ規定ニ拘ラズ

秘海軍公報 第五〇〇八號 昭和二十年五月十一日

昭和二十年五月八日

海軍大臣

所管海軍軍需部

供給ヲ受クベキ各處

横須賀海軍軍需部

横須賀鎮守府警備區所在ノ部隊學校等

吳海軍軍需部

吳鎮守府警備區所在ノ部隊學校等

佐世保海軍軍需部

佐世保鎮守府警備區所在ノ部隊學校等

舞鶴海軍軍需部

舞鶴鎮守府警備區所在ノ部隊學校等

大湊海軍軍需部

大湊警備府警備區所在ノ部隊學校等

鎮海海軍軍需部

鎮海警備府警備區所在ノ部隊學校等

高雄海軍軍需部

高雄警備府警備區所在ノ部隊學校等

大阪海軍軍需部

大阪警備府警備區所在ノ部隊學校等

官房人機密第三〇五號

昭和十九年勅令第九十九號ノ規定ニ依リ五月一日附任用セラレクル海軍技術少將木村 喬ノ海軍ノ席次ヲ左ノ通定ム

昭和二十年五月九日

海軍大臣

海軍技術少將池谷増太「五七」ノ次ニ

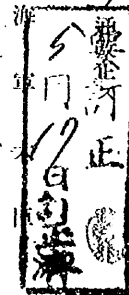
海軍技術少將 木村 喬(五七)ノ次ニ

四九五

官房需第八六號

昭和十八年官房需第二〇九號中左ノ

昭和二十年五月九日



別表第一中

主食品ノ部記事ノ欄(1)中「内地」ノ下ニ「戰地及準戰地ヲ除ク」ヲ加ヘ「臺灣、」ヲ削ル

副食品ノ部記事ノ欄(1)中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

保健食品ノ部生牛乳ノ項記事ノ欄中「本邦(内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州)」ヲ「内地(戰地及準戰地ヲ除ク)、朝鮮、樺太及關東州」ニ、混汁用ビタミン(B<sub>1</sub>)食ノ項記事ノ欄(1)中「若

ハ北緯三十度以南(臺灣本島及澎湖列島ヲ除ク)ヲ、「伊豆諸島、薩南諸島、北緯三十度以南」ニ改ム

備考第七中「北緯二十四度以南(自九月十六日至六月十五日臺灣本島及澎湖列島ヲ除ク)ヲ「伊豆諸島、薩南諸島、北緯三十度以南」ニ改ム

別表第二中

副食品ノ部無骨生獸肉ノ項記事ノ欄中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

保健食品ノ部生牛乳ノ項記事ノ欄中「本邦(内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州)」ヲ「内地(戰地及準戰地ヲ除ク)、朝鮮、樺太及關東州」ニ改ム

備考第五中「北緯二十四度以南(自九月十六日至六月十五日臺灣本島及澎湖列島ヲ除ク)ヲ「伊豆諸島沿岸、薩南諸島沿岸、北緯三十度以南」ニ改ム

別表第四中

(麥)ノ項記事ノ欄中「内地」ノ下ニ「(戰地及準戰地ヲ除ク)ヲ加ヘ「臺灣、」ヲ削ル

乾パン(非常勞働食)ノ項記事ノ欄中「本邦(内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州)以外ノ地域」ヲ「戰地又ハ準戰地」ニ改ム

(參照) 海軍會計法規類集二卷三三〇ノ一ノ二頁

官房軍第二五九號

昭和二十年五月五日

○ 通 牒

官房軍第二五九號

昭和二十年五月五日

各 廳 長 殿

海 軍 省 副 官

海軍省軍需局新機構ニ關スル件通知

現職局下燃料、衣類等ノ軍需職備ニ遺憾ナカシムル爲首題ニ關シ本月五日附關係法規中改正セラレクル處其ノ要旨左記ノ通ニ有之候

記

一 軍需局ヲ總務部(第一課及第二課)、第二部、第三部(第一

課乃至第三課)、第三部(第一課乃至第三課)及第四部(第一課乃至第三課)ノ五部制トシ各部ノ主要所掌事項左ノ如シ

部	主 要 所 掌 事 項	記 事
總務部	一般事項及局事務ノ綜合調整	
第一部	總務部及港用品並ニ軍需部關係ノ事務 (兵器ノ關スルモノト及他ノ部ノ所掌ニ屬スルモノヲ除ク)	舊第一課
第二部	燃料並ニ燃料廠關係ノ事務及燃料ニ關スル 軍需部ノ事務	舊第二課ノ大部
第三部	衣糧並ニ衣糧廠關係ノ事務及衣糧ニ關スル 軍需部ノ事務	舊第三課及臨時糧食生産班
第四部	所掌ニ係ル施設、裝置、機器類ノ設計及製 造並ニ資材ニ關スル事務	舊資材班及整備班ヲ含ム

- 二 海軍燃料廠長及海軍衣糧廠長ハ生産及技術上ノ事項ニ關シ、海軍軍需部長ハ艦營用品、燃料、被服及糧食ノコトニ關シ各海軍省軍需局長ノ指示ヲ承ク
- 三 軍需局ニ製圖工場ヲ置キ工員ヲ使役ス

教育機密第二〇八號

昭和二十年五月八日

海軍省教育局長  
海軍省人事局長

- 各鎮守府參謀長
- 各警備府參謀長
- 各艦隊參謀長 殿
- 新任法務科士官、特務士官、准士官及下士官ノ軍事學基礎講習ニ關スル件申進

秘海軍公報 第五〇〇八號 昭和二十年五月十二日

海軍法務科武官任用特例ニ依リ五月十五日附法務科ノ士官、特務士官、准士官又ハ下士官ニ任用セララル者ニ對スル首題講習ハ左表ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候

記 事	外 勤 務 者 地	内 勤 務 者 地			講 習 員	講 習 期 間	講 習 場 所	講 習 要 領
		第 一 回	第 二 回	第 三 回				
一 別表ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス 見ヲ附シ各所屬長官及海軍大臣ニ報告スルモノトス	各所屬長官ノ定ムル所ニ依リ右期間中前記要領ニ準ジ適宜實施スルモノトス	自六月一日 至六月三十日	自七月一日 至七月三十日	自八月一日 至八月三十日	各地軍法會議及刑務所最寄海兵團長ヲ指導官トシ其ノ定ムル所ニ依リ講習ヲ實施ス (一) 講習員ハ別表ニ依リ三回ニ分チテ指定海兵團ニ派遣シ團内ニ起居セシメ講習ヲ實施ス (二) 講習員ハ准士官以上ニ對シテハ第三條第一號ニ下士官ニ對シテハ第三條第五條ニ依リ適宜之ヲ取扱シ別表ニ依リ法務科主務官ノ指示ニ準ジ之ヲ實施ス (三) 講習項目ハ准士官以上ニ對シテハ海軍法務科主任官ノ指示ニ準ジ之ヲ實施ス		各兵團地	講習要領 各地軍法會議及刑務所最寄海兵團長ヲ指導官トシ其ノ定ムル所ニ依リ講習ヲ實施ス (一) 講習員ハ別表ニ依リ三回ニ分チテ指定海兵團ニ派遣シ團内ニ起居セシメ講習ヲ實施ス (二) 講習員ハ准士官以上ニ對シテハ第三條第一號ニ下士官ニ對シテハ第三條第五條ニ依リ適宜之ヲ取扱シ別表ニ依リ法務科主務官ノ指示ニ準ジ之ヲ實施ス (三) 講習項目ハ准士官以上ニ對シテハ海軍法務科主任官ノ指示ニ準ジ之ヲ實施ス

航本機密第三三三六號  
昭和二十年五月十日

關係各廳長殿

海軍航空本部總務部長

四九七

左右傾斜計三型裝備ノ件照會

首題ノ件左記ニ依リ旋回計二型ト極力換裝使用相成度

記

一 目的

轉輪計器生産能力不足ニ付簡易計器ニテ代用スルニ在リ

二 裝備機種(昭和二十年三月二日航本機密第一八〇五號別冊航空計器裝備表參照)

九三式陸上中間練習機前後席共

九三式水上中間練習機前後席共

零式練習戰鬥機後席

三 實施要領

本兵器ヲ補給廳ヨリ受入ノ上各隊ニ於テ換裝シ不要旋回計ハ極力還納スルモノトス

四 實施時期

可及的速ニ

○雜 款

内令提要別冊(定員關係)追録第十號(二月二十八日現在)四月三十日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票

送付相成度

十版内令提要追録第二十四號(二月二十八日現在)五月七日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成

度

(海軍省副官)

四九八

官衙、部隊名	所在地	開除、開隊月日	記
第九〇一海軍航空隊博多派遣隊	福岡縣糟屋郡志賀島村博多海軍航空隊内	三月二六日	郵便物發送先 福岡縣糟屋郡志賀島村博多海軍航空隊經由ウ三二四ウ二二二
第六海軍補充部出張所	基隆市壽町三ノ一七	三月二六日	郵便物發送先 基隆局氣付イ一九八一
西海海軍航空隊宇佐派遣隊	大分縣宇佐郡八幡村	四月一五日	旅行願路 日豊線豊前巽光寺驛下車 郵便物發送先 大分縣宇佐郡乙女郵便局 氣付海軍佐土原隊佐藤
○事務所撤去			
伊號第三百七十三潜水艦艇裝具事務所		四月一四日	
第七十五號海防艦艇裝具事務所		四月二一日	
海防艦高根艦裝具事務所		四月二六日	
第百五號海防艦艇裝具事務所		四月三〇日	
事務名	撤去月日	記	事

秘

海軍公報

第五〇〇九號

昭和二十年五月十二日

海軍大令

〇令 達

第一〇一號

轉免役賜金給與細則左ノ通定ム

昭和二十年五月十日

海軍大臣

要訂正  
5月20日訂正済

參謀長

轉免役賜金給與細則

第一條 所轄長ハ轉免役(召集解除)者又ハ死亡者ニシテ轉免役賜金令ニ依リ賜金ヲ受ツベキモノノ診斷書又ハ死亡診斷書ヲ在籍領守府又ハ警備府ノ軍醫長ニ送付スベシ

海軍病院入院中ノ轉免役(召集解除)者又ハ死亡者ニ付テハ海軍病院長ハ前項ノ規定ニ關シ之ヲ所轄長ト看做ス

第二條 領守府又ハ警備府ノ軍醫長前條ノ規定ニ依リ診斷書又ハ死亡診斷書ヲ接受シタルトキハ審査ノ上轉免役者ニ付テハ別表ニ依リ症狀ノ等位ヲ査定シ海軍人事部長ニ之ヲ送付スベシ

第三條 海軍人事部長前條ノ規定ニ依リ診斷書又ハ死亡診斷書ヲ受ケタルトキハ轉免役賜金受給資格者調書(様式第一及第二)ヲ作成シ之ニ診斷書又ハ死亡診斷書ヲ添附シ轉免役賜金給與案ヲ具シ領守府又ハ警備府ノ司令長官ニ之ヲ進達スベシ

第四條 領守府又ハ警備府ノ司令長官賜金

第五條 海軍人事部長及海軍省經理部長ハ毎年四月一

月及四月ノ四回前三箇月間ニ於ケル賜金支給調書(様式第三)ヲ海軍省人事局長及海軍省經理局長ニ送付スベシ

附則

本達ハ昭和二十年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

(別紙添)

内令第三三四號ノ二

右本籍ヲ横須賀領守府ト定ム

昭和二十年四月十八日

海軍大臣

第十七號 魚雷艇

要訂正  
5月20日訂正済

内令第三八〇號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年五月五日

海軍大臣

海軍公報 第五〇〇九號 昭和二十年五月十二日

四九九

號第二百九、波號第二百十」ヲ加フ  
海防艦、御藏型ノ項中「目斗、」ヲ削リ、同鶴來型ノ項中「蔚美」ノ下ニ「、室津」ヲ加ヘ、同第一號型ノ項中「第七十三號」ヲ削ル

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第三八一號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年五月五日

海軍大臣 閣  
要訂正  
五月五日

特務艇、哨戒特務艇第一號型ノ項中「第二十六號」ノ下ニ「、第二十七號」ヲ、「第三十二號」ノ下ニ「、第三十三號、第三十四號」ヲ、「第一百五十五號」ノ下ニ「、第一百五十六號」ヲ、「第一百七十五號」ノ下ニ「、第一百七十六號、第一百七十七號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令第三八二號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月五日

第七驅逐隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

海軍大臣 閣  
5  
20  
17

内令第三八三號  
海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月五日

海軍大臣 閣  
要訂正  
五月五日

第一海防隊ノ項中「能美、」ノ下ニ「神津、」ヲ加フ  
第二十一海防隊ノ項中「第二十七號」ノ下ニ「、第九十四號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第三八四號

横須賀鎮守府練習驅逐艦  
驅逐艦 澤風  
横須賀鎮守府豫備驅逐艦  
驅逐艦 響  
右警備驅逐艦ト定メラル

横須賀鎮守府練習海防艦

第三十七號海防艦

舞鶴鎮守府豫備海防艦

第六十五號海防艦

第二百五號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

吳鎮守府警備海防艦

第七十三號海防艦



<p>佐世保鎮守府整備海防艦 海防艦 目斗 右役務ヲ解カル 昭和二十年五月五日 海軍大臣</p>	<p>吳鎮守府在籍 第七十三號海防艦 佐世保鎮守府在籍 右帝國海防艦籍ヨリ除カル 昭和二十年五月五日 海軍大臣</p>	<p>内令第三八六號 昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年五月五日 第二魚雷艇隊ノ項中「11 13 14 15」ヲ削除ス (内令提要卷三、四八ノ二七頁參照)</p>	<p>内令第三八七號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス</p>
<p>昭和二十年五月五日 第八十三整備隊ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ 第一特攻隊 第十一號橫 第十四號橫 第十五號橫 第十七號橫</p>	<p>内令第三八八號 右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス 海軍大臣 波號第二十九潛水艦 波號第二十九潛水艦 波號第二十九潛水艦 波號第二十九潛水艦 昭和二十年五月五日 海軍大臣</p>	<p>内令第三八九號 右本籍ヲ橫須賀鎮守府ト假定ス 第二十七號哨戒特務艇 第三十一號哨戒特務艇 第三十四號哨戒特務艇 第三百五十六號哨戒特務艇</p>	

秘海軍公報 第五〇〇九號 昭和二十年五月十二日

五〇一

1333

右本籍ヲ佐世保領守府ト假定ス  
 昭和二十年五月五日  
 海軍大臣

内令兵第一九號  
 射出機造修規則中左ノ通告正ス  
 昭和二十年五月十日  
 海軍大臣

第七十條(一)ニ左ノ但書ヲ加フ  
 但シ制式ニ非ザル新製射出機ニシテ本領收試験ノ結果其ノ成績良好ト認ムル場合ハ以後製造ノ同型射出機ノ領收試験ハ本條(四)ノ試験ニ依ルコトヲ得

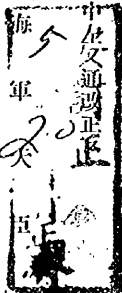
官房軍機密第四五四號  
 昭和二十年官房軍機密第二四四號  
 昭和二十年五月一日  
 別表中海軍省ノ部軍務局ノ項

主計兵曹(掌經理)兵(特修兵)	三
機關兵曹(適宜)	二

ヲ

主計兵曹(掌經理)兵(特修兵)	三
-----------------	---

ニ改メ



船舶應急處理委員會  
 勳務ニ充ツベキモノ  
 ヲ削ル

海軍航空本部	整備兵曹(特修兵)適宜	六	横須賀鎮守府	第一部第一課勳務ニ充ツベキモノ
	主計兵曹(掌經理)兵(特修兵)	一		第三部第三課勳務ニ充ツベキモノ

海軍航空本部	整備兵曹(特修兵)適宜	二	横須賀鎮守府	總務部第一課勳務ニ充ツベキモノ
	主計兵曹(掌經理)兵(特修兵)	一		第一部第一課勳務ニ充ツベキモノ
	整備兵曹(特修兵)適宜	六		第三部第三課勳務ニ充ツベキモノ

改メ末尾ニ左ノ如ク加フ

海軍燈政本部	主計兵曹(掌經理)兵(特修兵)	二	横須賀鎮守府	
海軍運輸本部	機關兵曹(適宜)	一	横須賀鎮守府	

(參照) 昭和二十年三月十二日秘海軍公報

官房軍機密第一五八號  
 當分ノ開船船救難本部ニ於テ船舶救難應急處理作業ニ要スル物品ニシテ急速調達困難ナル場合ハ海軍軍需部在庫ノ艦營需品ヲ繰替供給スルコトヲ得  
 補填費目ハ臨時軍事費、臨時軍事費、船舶應急處理費トス  
 附則  
 昭和十七年官房軍機密第一三〇六七號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年五月十日

海軍大臣

官房人第二八六號

海軍主計科及技術科武官任用及服役特例ノ規定ニ依ル築城施設關係ノ海軍技術科特務士官、准士官及下士官ノ任用ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年五月十一日

海軍大臣

一 現ニ築城施設ノ業務ニ從事中ノ海軍軍屬、施設關係ノ海軍工作兵及海軍技術兵並ニ海軍入籍前土木建築ノ技術ニ關スル業務ニ從事シタル工作兵又ハ技術兵以外ノ海軍兵ニシテ現役又ハ豫備役ノ海軍技術科特務士官、准士官又ハ下士官タラシコトヲ志願スルモノハ左表ノ區分ニ依リ昭和二十年五月二十日迄ニ到達スル如ク別紙様式ニ依ル願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄長ヲ經テ所管領守府司令長官ニ願出ヅベシ但シ海軍軍屬ニ在リテハ兵籍編入志望ノ領守府司令長官ニ願出ヅルコトヲ得

志願區分	志願資格
(イ) 海軍技術科特務士官	海軍技術タル者又ハ海軍技術トシテ三級俸以上ノ俸給ヲ受クル者
(ロ) 海軍技術科准士官	一 海軍技術トシテ六級俸以上ノ俸給ヲ受クル者 二 列任官待遇(部内限ヲ含ム)ノ囑託等トシテ月額七拾五圓以上ノ報酬又ハ給料ヲ受クル者
(ハ) 海軍技術科下士官	一 海軍兵ニシテ海軍入籍前五年以上土木建築ノ業務ニ從事シタルモノ、中等學校以上ノ課程ヲ卒業シタルモノ又ハ所轄長ニ於テ海軍入籍後ニ於ケル勤務技術共ニ拔群ナルモノト認メタルモノ 二 海軍技術タル者 三 列任官待遇(部内限ヲ含ム)ノ囑託等トシテ勤務中ノ者 四 海軍ニ於ケル築城施設ニ關スル業務ニ三年以上從事シタル者又ハ部外ニ於ケル土木建築ノ業務ニ五年以上從事シタル者 五 海軍ニ於ケル築城施設ニ關スル業務ニ從事中ノ者ニシテ中等學校以上ノ課程ヲ卒業シタルモノ但シ中等學校(乙種)卒業ノ者ニ在リテハ海軍ニ於ケル勤務一年以上ノモノ
備考	一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ志願スルコトヲ得ズ (イ) 陸軍武官タル者及昭和二十年六月十五日迄ニ陸軍部隊ニ入營又ハ召集豫定ノ者 (ロ) 特務士官志願者ニ在リテハ年齢四十年以上(豫備役志願者ハ四十五年以上)准士官志願者ニ在リテハ年齢三十五年以上(豫備役志願者ハ四十五年以上)又ハ二十八年末滿、下士官志願者ニ在リテハ年齢二十八年末滿ノ者但シ規定ノ年齢ヲ超過シタル者ト雖モ戰地勤務者等ニシテ所轄長ニ於テ身體強健氣力旺盛ナルモノト認メタル者又ハ規定ノ年齢ニ滿タザルモノト雖モ所轄長ニ於テ人物技術共ニ拔群ナル者ト認メタルモノハ志願セシムルコトヲ得

海軍公報 第五〇九號 昭和二十年五月十二日

五〇三

(ハ) 身體乙以下ノ者但シ戰地ヨリノ歸還者等ニシテ一時の衰弱ト認メラレ恢復ノ見込アリ所轄長ニ於テ勤務ニ差支ナキモノト認メタルモノハ志願セシムルコトヲ得

二 官職階身分待過勤務年數等ハ昭和二十年五月一日現在ニ依ルモノトス

二 所轄長ハ前號ノ志願者ニ就キ別紙様式ニ依ル所見表ヲ調製シ第一號ノ規定ニ依ル所見表ヲ調製シ前號ノ願書及履歷書ト共ニ之ヲ進達スベシ

三 任用試験ハ鎮守府司令長官ノ定ムル所ニ依リ適宜之ヲ施行スルコトヲ得

(別紙添)

官房經機密第二九七號  
昭和十八年官房經機密第九八二號ハ之ヲ廢止ス  
昭和二十年五月十一日

海 軍 大 臣

(參照) 昭和十八年官房經機密第九八二號ハ京城在勤海軍武官附主計科士官ヲ契約擔任官トスルノ件ナリ  
(機密會計法規類集五三五頁)

○ 通 牒

海人二第一〇三號  
昭和二十年五月十一日

海軍省人事局長

海軍省醫務局長  
海軍省經理局長

關係各廳長 殿  
轉免役賜金事務ニ關スル件申進  
今般事務簡素化ノ爲轉免役賜金ノ給與事務ヲ鎮守府(警備府)ニ委讓相成リタル處關係各部ニ於テハ左記ニ依リ事務連絡ヲ密ニシ可及の迅速、適切ニ處理セラルル様取計相成度

記

一 主務廳ヲ在籍鎮守府(警備府)ノ海軍人事部長トシ軍醫長及經理部長連帶トス

二 賜金ハ可能ナル限り退院歸郷(死亡者ニ付テハ遺族出頭等)ノ際交付スル如クシ賜金送付ニ要スル事務ノ省約ヲ計ルコト但シ賜金交付ノ爲退院ヲ延期スルガ如キコトナキコト

○ 雜 款

○ 正 誤  
五月三日海軍公報第五〇〇〇號令達欄官房經第二四二號中第二項トシテ「前項ノ規定ハ職員ニ付之ヲ準用ス」ヲ脱ス

○ 本日海軍公報發行セス

(達第一〇一號別表)

金額		區分	症狀等位
一〇〇〇円	特別項症乃至 第四項症程度 ノ者	特	特
七〇〇円	第五項症乃至 第七項症程度 ノ者	甲	甲
四五〇円	第一款症又ハ 第二款症程度 ノ者	乙	乙
三〇〇円	第三款症又ハ 第四款症程度 ノ者	丙	丙
一六五円	第一目症又ハ 第二目症程度 ノ者	丁	丁
六五円	第三目症又ハ 第四目症程度 ノ者	戊	戊

(昭和二十年五月十二日秘海軍公報)

1337

(達第一〇一號様式第一(轉免役者))

轉免役賜金受給資格者調書

(昭和二十年五月十二日祕海軍公報)

一 本 籍	二 轉免役後ノ住所	三 所轄、官(職)氏名	四 入團年月日	五 負傷又ハ罹病年月日	六 傷病名	七 負傷又ハ罹病ノ事由	八 轉免役區分	九 轉免役年月日	一〇 症狀等位及賜金額

年 月 日

海軍人事部長 團

(達第一〇一號様式第二(死亡者))

(昭和二十年五月十二日祕海軍公報)

轉免役賜金受給資格者調書

九 遺族	八 賜金額	七 死亡年月日	六 負傷又ハ罹病ノ事由	五 傷病名	四 負傷又ハ罹病年月日	三 入團年月日	二 所轄、官(職)氏名	一 本籍	轉免役賜金受給資格者調書

年 月 日

海軍人事部長 團

(達第一〇二號様式第三)

金額	一人當リノ 賜金額	員 數	區分		年度 自 年 月 轉 免 役 賜 金 支 給 調 書
			員 數 等 位	分	
			特	轉 免 役 者	昭和二十年五月十二日 鎮守府 警備府 海軍公報
			甲		
			乙		
			丙		
			丁		
			戊		
			計		
			死亡者		
			合計		



(官房人第二八六號別紙)  
願書様式(用紙適宜)

(昭和二十年五月十二日秘海軍公報)

昭和 年 月 日

本籍  
現勤務所

職官位勳氏

名 ⑩

所管鎮守府司令長官殿

海軍現役(豫備役)技術科特務士官(准士官又ハ下士官)任用願

海軍主計科及技術科武官任用特例ニ依ル海軍現役(豫備役)技術科特務士官(准士官又ハ下士官)志願ニ付任用相成度

私儀

(履歴書添)

(註) 豫備役志願者ハ豫備役ト朱書スルモノトス

(官房人第二八六號別紙)  
履歷書様式(用紙適宜)

履 歷 書

本 籍

(昭和二十年五月十二日秘海軍公報)

戸主職業氏名何男

氏

何年何月何日生

名

一 學 歴 (國民學校卒業以後修學シタル學校名、修業科目及其ノ期間、卒業年月日ヲ詳細ニ記註スルヲ要ス)

二 築城施設(又ハ土木建築)ノ技術ニ關スル經歷(奉職シタル官廳又ハ民間事業ノ名稱從事シタル業務ノ種類内容及其ノ期間ヲ詳細ニ記註スルヲ要ス)

右ノ通相違ナシ

昭和 年 月 日

右

氏

名

印

1342

(官房人第二八六號別紙)(用紙適宜)

(昭和二十年五月十二日秘海軍公報)

所見表

見所般一	志願區分 毎18分 註ノ如ク記 序順拔選	家其 父母妻子等家族ノ健否 刑罰其ノ他參考トナルベキ事項ヲ記載ス 況他	兵關	役係	身成	體檢	檢査	積年	種役	階職官	所聯	管區	勤務	勤務	生年月日	氏名	現官職	級俸	別部轄所
			徵集年	役種	官職階	聯隊所	聯隊管	勤務	勤務	聯隊管	聯隊所	聯隊管	聯隊所	聯隊管	聯隊所	聯隊管	聯隊所	聯隊管	聯隊所
(評語) 特務士官又ハ准士官ノ任用ヲ志願スル者ニ對シテハ特ニ其ノ素質ノ有無ニ關シ忌憚ナキ所見ヲ詳記スルモノトス (評語) 檢査ニ參與シタル軍醫科士官捺印ス (評語) 特ニ色彩ノ明ナルモノヲ記註ス (評語) 特ニ長ズルモノニ付其ノ力量ノ程度ヲ記ス (評語) 其ノ特ニ顯著ナルモノニ對シテハ狀況附記 昭和 年 月 日 所轄長職官 氏 名																			

(一) 内ハ考課表規則ニ準ジ評語ヲ記註スルモノトス

秘

# 海軍公報 第五〇一〇號

昭和二十年五月十三日(日)

## 海軍大臣官房

〇令 達

内令第三九〇號

波號第二百三潛水艦

波號第二十四潛水艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和二十年五月五日

海軍省 大臣官房 庶務課

内令第三九一號

特設通信隊及同分遣隊所在地、種別等ノ件申左ノ通改正セラレ

昭和二十年五月五日

佐世保鎮守府ノ部中第十二通信隊ノ項ヲ開ル

(内令提要卷一、六四ノ一頁参照)

官房需機密第一六〇號

昭和十九年官房需機密第二七一號中ノ通改正

昭和二十年五月十一日

第二號各病院ニ於ケル準備標準表申

横須賀 六〇〇

横須賀 二二〇〇

改ム

計 七六五〇

ヲ

計 八六五〇

ニ

(参照) 昭和十九年官房需機密第二七一號ハ入院患者ニ作業ヲ課スル場合被服物品貸與ノ件ナリ (昭和十九年八月二日秘海軍公報)

〇通 牒

軍務一第八七號

昭和二十年五月十一日

海軍省軍務局長

各 廳 長 殿

准士官以上正衣袴及禮衣袴供出ニ關スル件 申進

正装、禮装又ハ通常禮装ノ著用ハ戰時中ノミナラズ戰後ニ於テモ當分復舊セラレザル見込ニ有之若シ復舊著用ノ時機到來セバ其ノ調達ニ關シ官ニ於テ充分考慮致スベキニ付此ノ際現役及在郷准士官以上ニ於テ死藏中ノ此等制服ハ全部有償ニテ供出ノコトトシ軍需被服ニ活用致度候條現下ノ窮迫セル纖維製品需給狀況篤ト諒察ノ上之方供出ニ關シ可然取計相成度 追テ供出及送付ノ要領等ニ關シテハ海軍省軍需局ヨリ別ニ通知セララル管ニ有之候

秘海軍公報 第五〇一〇號 昭和二十年五月十三日

五〇五

軍務三機密第四八九號

昭和二十年五月十一日

海軍省軍務局長

關係各局部長  
大津 大阪 警備府參謀長  
内地各海軍監理長

工場事業場ノ空襲被害對策ノ實施ニ關スル件  
中進

首題ノ件ニ關シ重要工業地域ニ對スル空襲ハ今後益々激化ノ情勢ニ鑑ミ今般關係各省間ニ於テ別紙ノ通中合決定相成候處右ハ罹災地區内殘存重要工場ニ對スル應急復舊又ハ生産轉移等被害對策ノ一元且機動的實施ニ關シ關係各省各機關眞ニ一體緊密ナル連繫ノ下ニ之ヲ強力迅速ニ推進セシメラルル趣旨ニ有之候條了知ノ上之方運營ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度

(別紙)

工場事業場空襲被害對策ノ實施ニ關スル件 三〇、四、六  
空襲激化ノ情勢ニ鑑ミ被害工場事業場ニ對スル對策ノ實施ヲ強力迅速ニ推進スル爲自今次ノ如キ要領ニ依リ措置スルモノトス  
第一 應急措置

被害地域ノ殘存主要工場ニ對シテハ直チニ次ノ如キ應急措置ヲ講ジ當該工場ノ操業ノ繼續維持ニ努ムルモノトス  
一 燃料局ハ瓦斯會社及統制團休ヲ動員シガス及燃料ノ供給支障ノ實相ヲ把握シ速カニ之ヲ打開ニ關スル具体計畫ヲ策定實施スルモノトス之方爲必要アルトキハ應急修理復舊期

間中ガス及燃料ノ一般民需ヘノ供給停止ヲ行フモ已ムヲ得ザルモノトス

二 電力局ハ日本發送電株式會社及各配電會社ヲ動員シ電力供給支障ノ實相ヲ速ニ把握シ之ヲ打開ニ關スル具体計畫ヲ速カニ策定實施スルモノトス之方爲必要アルトキハ一般需要ニ對スル電力供給ノ一時的停止若ハ制限ヲ爲スモ已ムヲ得ザルモノトス

三 軍需監理部長ハ前二號ノ實施ニ關シ燃料局及電力局ト緊密ナル連絡ヲ採リ之方現地的實施ノ萬全ヲ期スル外左ノ措置ヲ講ズルモノトス

(イ) 勞務者ノ離散防止ニ付テハ各般ノ措置ヲ講ズル要アルモ、就中工員住宅、勞務者用食糧、勞務者通勤用交通機關等ノ確保ヲ圖ルモノトシ之方實施ノ迅速回滑ヲ期スル爲地方廳其ノ他關係方面トノ連絡ノ緊密化ヲ圖ルコト

(ロ) 復舊用ノ資材ニ關シテハ極力現有物資ヲ彼此融通シ之ガ活用ヲ圖リ特ニ未稼働物資ヲ極力動員スルコト

(ハ) 工場用水ノ確保ニ關シテハ地方擔當官署ト緊密ニ連絡シ萬全ノ措置ヲ講ズルコト

(ニ) 殘存工場ノ操業ヲ維持繼續スル爲必要ナル機械設備等ノ充足ハ被害工場ノ機械設備ニシテ利用可能ノモノヲ強力ニ動員スルノ措置ヲ講ズルコト

(ホ) 應急復舊ニ必要ナル輸送力及勞務ノ確保ニ付テハ關係地方官署ト緊密ニ連絡シ優先的ニ之ヲ確保ヲ圖ルコト

1345

四 前各號ノ實施ニ關シ燃料局、電力局及軍需監理部ハ之ガ目的達成上隘路トナルベキ事項及之ガ打開ノ具體的要望ヲ急速ニ取纏メ臨時生産防衛對策中央本部ト連絡ヲ採リ陸海軍其ノ他關係官廳ニ提起スルモノトス

陸海軍及關係官廳ハ前項ノ要望事項達成ニ關シ全面的協力ヲ爲スモノトス

第二 恒久措置

一 軍需本省ハ豫メ所管産業ノ工場事業場ニ付空襲被害ヲ受ケタル場合ニ於テ復舊ヲ要スルヤ否ヤ又ハ生産轉移ヲ爲スヤ否ヤノ區分ヲ概定シ軍需監理部長ニ示達シ置クモノトス

二 前項ノ區分ノ決定ハ臨時生産防衛對策中央本部ノ議ヲ經テ之ヲ行フモノトシ情勢ノ變化ニ應ジ隨時適當ナル修正ヲ行フモノトス

三 現場復舊ヲ認ムル工場事業場ハ戰局ノ要請ニ鑑ミ眞ニ決戰遂行上不可決ナル工場事業場ヲ嚴選スルモノトシ、又生産轉移ヲ行フ工場事業場ハ重要工場事業場ニ付重點的ニ之ヲ定メ復舊及生産轉移ノ集中的實施ヲ期スルモノトス

四 軍需監理部長ハ第一項ノ示達ニ基キ具體的ナ被害工場ニ付其ノ被害ノ程度ヲ勘案シ復舊又ハ生産轉移ノ具體計畫ヲ策案實施シ臨時生産防衛對策中央本部ニ報告スルモノトス

五 軍需監理部長ハ原則トシテ前各號ニ依リ現場復舊及生産轉移ヲ爲スベキ工場トシテ決定セラレタルモノ以外ノ工場事業場ノ復舊及生産轉移ヲ認メザルモノトス

六 復舊又ハ生産轉移ヲ爲スベキ工場事業場トシテ決定シタルモノノ復舊及生産轉移ノ實施ニ付テハ之ガ所要資材、勞務、動力、燃料、資金、輸送、食糧等ノ確保ニ關シ關係官廳ハ軍需監理部ヲ中心トシ緊密ナル連絡ヲ採リ全面的ニ協力援助ヲ爲スモノトス尙必要ニ應ジ軍ノ協力ヲモ受クルコトアルモノトス

七 復舊及生産轉移ノ實施ヲ強力ニ推進スル爲復舊工作隊ノ組織及運用ヲ整備強化スルモノトス

備考

本件ノ實施ヲ一元的且強力ニ行フ爲復興對策ニ關スル中央ノ業務ニ付テハ臨時生産防衛對策中央本部ニ整備班ヲ置キ之ヲ司リ軍需監理部ニ復舊班ヲ結成シ關係各廳及特ニ緊要ナル民間團體ノ關係者ニ參加ヲ求ムルモノトス

軍需衣第三四號

昭和二十年五月十二日

海軍省軍需局

各廳御中

准士官以上正衣袴及禮衣袴有償供出要領ニ關スル件通知

軍務一第八七號ヲ以テ申進ノ首題ノ件ハ左記要領ニ依リ取計ハレ度

記

一 供出品種及其ノ價格

品名	單位	將官	佐官	尉官、准士官	記	事
正正正正正正正正正正	個個個個個個個個個個	二〇二〇三〇二五	一〇〇〇三〇三五	九〇三五七〇	一五二〇一〇三〇四五	飾劍緒帶章帽衣袴衣袴衣衣
正正正正正正正正正正	個個個個個個個個個個	二〇二〇三〇二五	一〇〇〇三〇三五	九〇三五七〇	一五二〇一〇三〇四五	正正正正正正正正正正
						正正正正正正正正正正

二 供出並ニ送付ノ方法

- (イ) 現役准士官以上(應召者ヲ含ム)ノ供出品ハ成ベク其ノ勤務廳ニ於テ取纏メ之ヲ最寄海軍軍需部ニ送付ノコト
- (ロ) 在郷准士官以上ノ供出品ハ在郷軍人會分會(海軍部)及私的海軍團體等ヲ利用スル等便宜ノ方法ニテ之ヲ取纏メ最寄海軍軍需部ニ送付ヲ希望ス
- (ハ) 供出品ニハ一品毎ニ供出者ノ官氏名及勤務廳(又ハ住所)ヲ明記セル荷札ヲ附スルコト
- (ホ)(ニ) 荷造運賃ハ送付先軍需部負擔ノコトトシ差支ナシ送付ノ際ハ品名、數量、官氏名、住所(又ハ勤務廳)ヲ記入ノ送付票ニ通ト共ニ現品ヲ送付ノコト
- 軍需部ニ於テハ送付票ノ内一通ノ紙端ニ領收ノ旨ヲ記シ記名捺印シ之ヲ領收證ニ代フルコト
- 受領軍需部ハ臨時軍事費、衣糧費、被服費支辨ニテ相當代

價ヲ供出者(又ハ各廳ノ取扱者)ニ支拂ノ手續ヲ爲スコト

四 供出品ハ受領軍需部ニ於テ之ヲ受入レ其ノ品種、數量ヲ取纏メ當局ニ通知ノコト

供出品ノ利用方法等ニ付テハ別ニ指示ス

運本機密第五三五號 昭和二十年五月十日 海軍運輸本部長

關係各廳長殿 軍用貨物鐵道輸送ニ關スル件通知

鐵道輸送力逼迫ニ伴フ軍用貨物ノ輸送實情ニ鑑ミ輸送統制ノ必要上海軍運輸本部及海軍運輸部(運輸支部及出張所ヲ含ム)ニ於テ取扱フ首題ノ件ニ關シテハ昭和十七年一月十四日海軍機密第十一號海軍人員及軍用貨物鐵道輸送手續ニ依ルノ外五月十五日ヨリ當分ノ間左記ニ依リ取扱フコトト致候

一 輸送ノ區分

(イ) 軍用貨物ニシテ發送日及發送列車又ハ發送連絡船ヲ指定シテ輸送スルモノヲ軍用(甲)トス但シ到着日時ノ確保ヲ要スルモノハ着驛迄ノ輸送列車又ハ連絡船ヲ指定ス

(ロ) 軍用貨物ニシテ發送日ヲ指定シテ輸送スルモノヲ軍用(乙)トス

二 輸送ノ申込 左ノ各號ニ依ルモノトス

1347 1345

略稱	區分	提出書類
軍用(甲)	發送日及發送列車又ハ發送連絡船ノ指定ヲ要スルモノ	海軍軍用貨物鐵道發送申込書(甲)
軍用(甲)	到着日時ノ確保ヲ要スルモノ	同右發送申込書(甲) 出發、到着月日欄ニ希望月日ヲ記入スルノ外餘白ニ「發送列車指定」ト朱書スルコト
軍用(乙)	發送日ノミヲ指定スルモノ	海軍軍用貨物鐵道發送申込書(乙)

三 輸送計畫及通報方

(イ) 運輸部處理ノモノ

便宜ノ方法ニ依リ甲、乙ニ區分シ輸送實施計畫ヲ關係各廳ニ通報スルモノトス

(ロ) 運輸本部處理ノモノ

軍用(甲)ニ對シテハ「海軍鐵道輸送計畫表(甲)」、(輸列車指定)モノニ對シテハ(特)ヲ附記ス)ヲ軍用(乙)ニ對シテハ「同表(乙)」ヲ作成シ計畫事項ヲ各關係廳ニ通報スルモノトス

○ 雜 款

○ 恩給年敘勳年加算ニ關スル件

今般官房人第一三八號ヲ以テ從軍年加算ニ關スル件中改正セラ

秘海軍公報 第五〇一〇號 昭和二十年五月十三日

レ昭和十九年七月十日ヨリ海軍練習聯合航空總隊麾下タリシ各航空隊勤務ノ左記ノ者ニ對シ其ノ勤務期間中從軍加算(一月ニ付一月)付與セラルルコトト相成候條現在員ニ付該當者調査ノ上履歷書(表)記註竝ニ之ニ對スル恩給年敘勳年加算通知等可然取計相成度但シ入院又ハ引入、轉地療養中ノ者ヲ除ク

記

- 一 學生、生徒
- 二 練習生(豫科練習生ヲ含ム)
- 三 新兵
- 四 講習員

(海軍練習聯合航空總隊殘務整理班)

○ 從軍加算付與ニ關スル件

今般官房人第一三八號ニ依リ當隊學生、練習生、講習員竝ニ新兵教程中ノ者ニ對シ昭和十九年七月十日ヨリ職務丁加算セララルコトト相成候ニ就テハ右期日以後貴廳ニ轉勤セル者ノ履歷書(表)左記ニ依リ記註ノ上恩給年敘勳年加算通知等可然處理相成度

記

自昭和	至昭和	相模野海軍航空隊ニテ	職務丁	相模空
二年二月十日	二年二月十日	第一相模野海軍航空隊ニテ	職務丁	相模空
至同	至同	第一相模野海軍航空隊ニテ	職務丁	相模空

(第一相模野海軍航空隊)

五〇九

1348 1346



合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
五月九日〇九〇〇	故海軍少將山高松次郎外諸勇士	吳海軍人事部長	海仁會吳集會所 櫻松館	佛式
同	故海軍中佐宮野善治郎外諸勇士	吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍少佐森岡 靖外諸勇士	吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍少佐坂井 務外諸勇士	吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍少將大江覽治外諸勇士	吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍少將矢野寛二外諸勇士	吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍中佐島田武夫外諸勇士	吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍中將猪口敏平外諸勇士	吳海軍人事部長	同	同
同	故海軍少佐大谷英夫外諸勇士	吳海軍人事部長	同	同

○本日軍極秘海軍公報第一三〇號(乙配付)發行セリ  
配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、  
吳海軍工廠、第十一、川棚各突擊隊、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報號外(位勳)

昭和二十年五月十四日(月) 海軍大臣官房

○ 叙 勳

○ 昭和二十年二月十四日發令

假勳(元六三四) 海軍少將 村上 房三

假勳(元六三三) 海軍大佐 龜田 寬見

假勳(元六三二) 同 小田切政徳

假勳(元六三一) 同 小山 清行

假勳(元六三〇) 同 西山 虎一

假勳(元六二九) 同 藤野 勉

假勳(元六二八) 同 石原 宇市

假勳(元六二七) 同 山下 清

假勳(元六二六) 海軍中佐 田中 勢一

假勳(元六二五) 同 樋田 均

假勳(元六二四) 同 西村 盛雄

假勳(元六二三) 同 瀬戸山八郎

假勳(元六二二) 同 堀山 榮

假勳(元六二一) 同 清水 鶴造

假勳(元六二〇) 海軍中佐 小川 亂

假勳(元六一九) 海軍主計大佐 松田 盛男

假勳(元六一八) 海軍中佐 杉橋 豊次

假勳(元六一七) 同 原田 昌雄

假勳(元六一六) 海軍少佐 豊島 俊夫

假勳(元六六六) 同 青山 豊四

假勳(元六六五) 海軍軍醫少佐 伊藤 迪康

假勳(元六六四) 海軍主計少佐 外田 正雄

假勳(元六六三) 同 瀬間 喬

假勳(元六六二) 海軍技術少佐 岩下正次郎

假勳(元六六一) 同 横井 鎮男

假勳(元六六〇) 同 黒川 成己

假勳(元六五九) 同 田上 善吉

假勳(元六五八) 海軍大尉 細川 鉄雄

假勳(元六五七) 同 藤岡 綾夫

假勳(元六五六) 同 松下 勝良

假勳(元六五五) 同 橋川歸四郎

假勳(元六五四) 同 藤田 親吉

假勳(元六五三) 同 高橋市太郎

假勳(元六五二) 同 幸寺 正好

假勳(元六五一) 同 新郷 常次

假勳(元六五〇) 同 嶋谷 量吉

假勳(元六四九) 同 田中 光顯

假勳(元六四八) 同 稻場 貞良

假勳(元六四七) 同 新貝 國男

假勳(元六四六) 同 島谷 正

假勳(元六四五) 同 齋藤 勝馬

假勳(元六八六) 同 川村文三郎

假勳(元六八五) 同 佐藤富士達

假勳(元六八四) 同 高尾 清

假勳(元六八三) 同 本田 民雄

假勳(元六八二) 同 齋藤 省三

假勳(元六八一) 同 高島 春海

假勳(元六八〇) 同 田村 護

假勳(元六七九) 同 宇都 節

假勳(元六七八) 同 釘田 正人

假勳(元六七八) 同 須藤 光夫

假勳(元六七八) 同 高田 良一

假勳(元六七八) 同 大前 康彦

假勳(元六七八) 同 石原 昌訓

假勳(元六七八) 同 林 昌訓

假勳(元六七八) 同 末永日登一

假勳(元六七八) 同 道家 治徳

假勳(元六七八) 同 八木谷慶夫

假勳(元六七八) 同 濃屋 義雄

假勳(元六七八) 同 梅澤 正廣

假勳(元六七八) 同 砂塚 弘道

假勳(元六七八) 同 勝田 尊信

假勳(元六七八) 同 若林 一郎

假勳(元六七八) 同 阿部 正見

假勳(元六七八) 同 田中 周司

(通名)

(通名)

(通名)

(通名)

秘海軍公報 號外(位勳)

假勳元二〇	海軍技師	高村勝一	假勳元二〇	海軍技師	關巡定
元二〇二	同	和泉三則	元二〇三	海軍技術中尉	山西善一
元二〇三	同	三箇尻龜次郎	元二〇四	海軍技師	宮川善一
元二〇三	同	岩切文雄	元二〇五	同	杉本久夫
元二〇三	同	柳澤敬二	假勳元九〇	海軍技術少佐	宮川經雄
元二〇四	海軍理事官	相澤力	元九〇	海軍大尉	小川清
元二〇五	同	相澤力	元九〇	同	大野俊也
元二〇六	海軍編修	大町秀太郎	元九〇	海軍技師	四手井綱彦
元二〇六	海軍技師	小川良爾	元九〇	海軍技師	野口恒樹
元二〇七	海軍書記	小川良爾	元九〇	海軍技師	大久保正治
元二〇七	海軍技師	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二〇八	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二〇九	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二〇九	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二一〇	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二一一	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二一一	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二一一	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二一一	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二一一	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治
元二一一	海軍書記	小川良爾	假勳元九〇	海軍技師	大久保正治

<p>(通各)</p> <p>七六〇〇 同 豐増 清八          七六一三 同 中野 信行          七六二六 同 岩城 邦廣          七六三九 同 山口 幸三郎          七六五二 同 宮内 常人          七六六五 同 福原 平治          七六七八 同 原 清          七六九一 同 南 正一          七七〇四 同 松崎 重雄          七七一七 海軍主計少佐 草間 卓次          七七三〇 海軍軍醫少佐 上野 直一          七七四三 同 上野 直一          七七五六 同 濱田 善治          七七六九 同 福留 宗一</p> <p>假勳七等授瑞寶章          七九九〇 海軍少佐 長谷川 治彦          七九九一 海軍技術少佐 弘中 隆一          七九九二 同 多田 正昭          七九九三 同 大森 頼雄          七九九四 海軍大尉 折笠 重康          七九九五 同 野村 盛弘          七九九六 同 塚越 英夫          七九九七 同 横山 博          七九九八 同 唐沢 廣志          七九九九 同 駒崎 芳治          八〇〇〇 同 中川 金次          八〇〇一 同 内元 忠男</p>			<p>(通各)</p> <p>八〇〇二 同 園 稜          八〇〇三 同 二宮 金儀          八〇〇四 同 丹羽 永太郎          八〇〇五 同 松下 辰吉          八〇〇六 同 榊野 喜一          八〇〇七 同 村井 出          八〇〇八 同 尾上 正明          八〇〇九 同 石田 巳代治          八〇一〇 同 齋藤 正次          八〇一一 同 細川 二郎          八〇一二 同 銅手 眞吾          八〇一三 同 石渡 達夫          八〇一四 同 綿引 虎男          八〇一五 同 後藤 久吉          八〇一六 海軍技術大尉 辻 一藏          八〇一七 海軍司政官 保坂 虎雄          八〇一八 同 白川 英男          八〇一九 同 泥川 清孝          八〇二〇 同 永田 五郎          八〇二一 同 辻 芳彦          八〇二二 同 林 信一          八〇二三 同 住野 信          八〇二四 同 樋口 泰三          八〇二五 同 井村 成章          八〇二六 同 太田 七郎          八〇二七 海軍技術師 宇根 文太郎</p>			<p>(通各)</p> <p>八〇二八 同 星野 知三郎          八〇二九 同 神谷 茂三          八〇三〇 同 兒玉 周平          八〇三一 同 福田 平咲          八〇三二 同 三浦 治朗          八〇三三 同 並木 静          八〇三四 同 宮崎 平太郎          八〇三五 同 星加 正市          八〇三六 同 加藤 俊雄          八〇三七 同 馬場 重人          八〇三八 同 田中 主税          八〇三九 同 山添 元之助          八〇四〇 同 中村 進          八〇四一 同 山口 一男          八〇四二 同 河西 善輝          八〇四三 同 河下 道喜          八〇四四 同 淵上 松一          八〇四五 同 筑波 重男          八〇四六 同 田村 茂          八〇四七 同 田中 滋穂          八〇四八 同 木村 杵高          八〇四九 同 古賀 慶一          八〇五〇 同 綾田 潔          八〇五一 同 朝比奈 利雄          八〇五二 同 佐藤 安彦          八〇五三 同 深井 浩介</p>		
--	--	--	--	--	--	---	--	--

假勳三〇五六	海軍大尉	植田 實郎
三〇五九	同	中井 茂喜
三〇六〇	同	阿部 善次
三〇六一	海軍軍醫大尉	鬼頭 秋秀
三〇六二	海軍主計大尉	江崎 壽人
三〇六三	同	綿貫 三郎
三〇六四	同	岡田 寛
三〇六五	海軍技師	北村市太郎
三〇六六	同	武田 義明
三〇六七	同	古河市之丞
三〇六八	海軍司政官	森 茂雄
三〇六九	同	岡田 康則
三〇七〇	同	富田彦二郎
三〇七一	同	大野 義治
三〇七二	同	林 光男
敍勳六等授瑞寶章		
假勳三六八〇	海軍技手	千籠 俊衛
三六八三	海軍書記	福田 基次
三六八四	同	飯田 勝雄
三六八五	海軍警部	山田 武夫
三六八六	同	佐藤 三次
敍勳八等授瑞寶章		
假勳三七九〇	海軍大尉	秋山 正信
○昭和十九年八月十五日發令		
敍勳五等授瑞寶章		
假勳三九三三	海軍大尉	今井 正男
○昭和十九年九月十一日發令		
勳六等授瑞寶章		
假勳三九三三		

○昭和十九年十一月十五日發令  
假勳三九三三 海軍大尉 奥秋 利雄  
敍勳四等授瑞寶章  
○昭和十八年十一月十一日發令  
假勳三〇六九 海軍技師 淵木 一  
敍勳五等授瑞寶章



# 海軍公報

第五〇一一號

昭和二十年五月十四日(月)  
海軍大臣官房

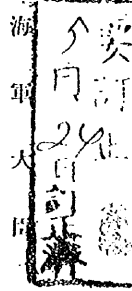
〇令 達

内令第三六三號

右本籍ヲ横須賀鎮守府卜定ム

昭和二十年四月二十七日

第二十五號哨戒特務艇



内令第三六四號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

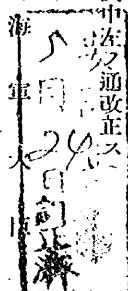
昭和二十年四月二十七日

下關防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄ニ「第二十五號(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

官房軍第二六一號

一 當分ノ間左ノ各廳ニ技術參與及技術員ヲ置クコトヲ得共ノ標準左ノ如シ



廳 名 標 準

海軍省軍務局	
海軍艦政本部	
海軍航空本部	
海軍施設本部	技術ニ關スル兼務囑託中勅任官待遇ノ者及判任官待遇ノ者各五分ノ一以内
海軍技術研究所	
海軍技術廠	
海軍工廠(實驗部ヲ置カレアルモノノミ)	
海軍航空廠	

二 技術參與ハ海軍兼務囑託者ニシテ部内限リ勅任官又ハ奏任官待遇タル部外技術者中特ニ必要ト認ムルモノニ對シ海軍大臣之ヲ命ズ

技術參與ハ勤務廳ノ名稱ヲ冠シ之ヲ某廳技術參與ト呼稱スルモノトス

三 技術員ハ海軍兼務囑託者ニシテ部内限リ判任官待遇タル部外技術者中特ニ必要ト認ムルモノニ對シ所屬長官之ヲ命ズ  
技術員ノ呼稱ニ關シテハ前號第二項ノ規定ニ準ズ

四 技術參與及技術員ノ勤務ニ關スル取扱ハ其ノ待遇ニ應ジ夫々勅任文官、奏任文官又ハ判任文官同様トシ廳長ハ特技ニ應

秘海軍公報 第五〇一一號 昭和二十年五月十四日

五一

1354

シ某部長輔佐、某科主任、某班長等ノ命課ヲ爲シ勤務セシムルモノトス

昭和二十年五月十一日

海軍大臣

○通牒

官房機密第二一九號

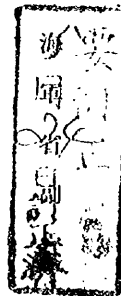
昭和二十年五月十三日

海軍省大構内各廳長殿

海軍省大構内區域ノ区分ニ關スル件通牒

首題ノ件官房機密第一四九號別紙ヲ別紙ノ通改メラレ候

(別紙添)



艦本機密第二號ノ五九三七

昭和二十年五月十三日

海軍艦政本部長

横須賀、吳、海軍工廠長

佐世保、舞鶴、第一、第二、第三火藥廠長 殿

陸戦用G無煙火藥貯藏安定度検査規則及試験

法ノ件通牒

首題ノ件當分ノ間一三式無煙火藥ニ準シ實施スベシ

○雜 啟

○試験銓衡問題發送

高等科 砲術 特技章付與第二回  
普通科 砲術 特技章付與第五回  
銓衡試験問題發送  
(試験期日 昭和二十年六月一日(金))

右五月四日左記ノ通發送濟、未着及別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事務部、警備府又ハ横須賀海軍砲術學校館山分校へ至急通知相成度

記

- 一 聯合試験用ノモノハ各海軍人事務部、各警備府宛送付
- 二 單獨試験施行豫定ノ所轄ニハ直送
- 三 聯合試験參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試験參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記單獨試験用問題若干送付濟

(横須賀海軍砲術學校館山分校)

○從軍加算付與ニ關スル件

今般官房人第一三八號(三月十五日秘海軍公報)ニヨリ當校ノ勤務員(承命服務、學生、練習生、講習員、新兵ヲ含ム)ニ對シ昭和十九年七月十日以後一月ニ對シ一月ノ加算ヲ付與セララルコトト相成候ニ就テハ現ニ貴所轄勤務員ニ付該當者調査ノ上左ノ通處理相成度

一 本人履歷書(表)ハ左例ノ通記註相成度

(例) 昭和十九年七月二十日以後昭和二十年二月二十八日迄場合

自 年 月 日 横須賀第二警備隊設ケ浦派  
至 年 月 日 遺隊ニテ職務丁 横二警  
派

昭和二十年三月一日以後ノ場合

自 年 月 日 阿見警備隊ニテ職務丁  
至 年 月 日 阿見警

二 在籍海軍人事部長ニ對シテハ所定ノ恩給年敘勳年加算通  
知相成度

(海軍氣象學校)  
(舊海軍航海學校)

今般官房人第一三八號(三月十五日秘海軍公報)ニ依リ昭和十  
九年七月十日ヨリ左記ノ者ニ對シ當隊勤務期間(入院中ヲ除ク)  
中從軍加算(職務丁)付與セラルコトト相成候條現貴應勤務  
員中該當者ニ對シテハ履歷書(表)記註、恩給年敘勳年加算通  
報等可然處理相成度

記

學生、練習生、講習員、補缺員、新兵

(横須賀海軍航空隊)

今般官房人第一三八號ニ依リ昭和十九年七月十日ヨリ左記ノ者  
ニ對シテモ當隊勤務期間(入院中ヲ除ク)中從軍加算「職務丁」  
付與セラルコトト相成候條現貴應勤務員中該當者ニ對シ履歷  
記註恩給年敘勳年加算通知等可然處理相成度

記

學生、練習生、講習員

(霞ヶ浦海軍航空隊)

今般官房人第一三八號(三月十五日秘海軍公報)從軍加算ニ關  
スル件改正ニ依リ昭和十九年七月十日ヨリ左記職員ニ對シ當團  
勤務期間(但シ引入(轉地)療養又ハ入院中ノ期間ヲ除ク)中  
從軍加算(一月ニ付一月)付與セラルコトト相成候ニ付テハ  
現貴所轄勤務員ニ付該當者調査ノ上履歷書(表)ノ記註及右ニ  
對スル恩給年敘勳年加算通知等可然處理相成度

記

一 教育中ノ豫備學生、豫備生徒

二 下士官兵

補缺員、講習員、練習兵、新兵

(武山海兵團)

今般官房人第一三八號從軍加算ニ關スル件改正ニ依リ昭和十九  
年七月十日ヨリ左記職員ニ對シ當團勤務期間(但シ引入(轉地)  
療養中ノ者及入院中ノ者ヲ除ク)中從軍加算(一月ニ付一月)  
付與セラルコトト相成候條現貴所轄勤務員ニ付該當者調査ノ  
上履歷書(表)記註及右ニ對スル恩給年敘勳年加算通知等可然  
處理相成度

記

一 准士官以上

技術見習尉官



二 下士官及兵

信號術(信號)(見張) 特技兵講習員、新兵

(濱名海兵團)

○開隊 開隊

官衙、部隊名	所在地	開隊、開隊月、日	記	事
ウ五八八部隊 (第三一三) 設隊	香川縣三豊郡觀音寺町	四月二九日	旅行順路 豫讃線觀音寺驛下車徒歩約二〇分(三豊中學校内)	
横須賀海軍經理部 仙臺支部	宮城縣仙臺市東二番町六一番地	五月一日	旅行順路 仙臺驛下車徒歩約十分	
第十二海軍航空廠 自動車科	大分市大字勢家	四月一日	電話大分 一一八八番	
第十二海軍航空廠 自動車科 (秘匿名第一二六部隊)	大分縣速見郡日出町	五月一日以後	電話日出 二七番	
大阪船舶救難支部	大阪市西區川口町十九番地	四月二〇日	軍用電話	
第三百三十九設隊	京都府舞鶴市公文名第一教導設隊管内	四月五日		
呂號第六十四潜水艦 水鏡殘務整理事務所	廣島縣佐伯郡大竹郵便局氣付呂號第六十四潜水艦司令	四月八日	大竹海軍潜水學校交換 三二二	
第三百五十三設隊	吳海軍施設部内	四月二五日		

○隊名呼稱變更

當部教導設隊班八四月二十六日左ノ通隊名呼稱變更セリ  
新隊名 阪下部隊  
舊隊名 藤後部隊  
(吳海軍施設部)

○出張所廢止

第一海軍衣糧廠京城出張所(朝鮮京城府旭町京城海軍在勤海軍武官内)ハ四月十五日之ヲ廢止セリ  
(第一海軍衣糧廠)

○正誤

五月四日秘海軍公報第五〇〇一號令達欄官房經機密第二七三號海軍戰時特例給與規程中第十條ノ三中「支ヲ支給セズ」ハ「之ヲ支給セズ」ノ誤

○本日軍極秘海軍公報第一三二號(乙配付)發行セリ  
配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠







諸規定ヲ準用ス

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

内令第三四七號ノ二

特設海軍燃料廠補給部規程中左ノ

昭和二十年四月二十日

海軍大臣 昭和二十年四月二十日

第一條中「南方占領地」ノ下ニ「等」ヲ加フ

第二條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 國內天然石油増産ニ必要ナル作業ニ關スルコト

(内令提要卷一、三八ノ三三頁参照)

内令第三四七號ノ三

左ノ通特設海軍燃料廠補給部ノ出張所

昭和二十年四月二十日

海軍大臣 昭和二十年四月二十日

所在地	名稱
秋田縣 秋田市	特設海軍燃料廠補給部秋田出張所
山形縣 酒田市	特設海軍燃料廠補給部酒田出張所
新潟縣 柏崎市	特設海軍燃料廠補給部柏崎出張所

内令第三七九號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地

正セラル

昭和二十年五月一日

海軍大臣 昭和二十年五月一日

佐世保鎮守府ノ部中第一五三海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第一七一海軍航空隊

鹿屋航空基地(鹿兒島縣鹿屋市)

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第三九二號(軍機秘海軍公報第一三一號(乙配付)ニ掲載)

内令第三九三號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改

正セラル

昭和二十年五月五日

海軍大臣 昭和二十年五月五日

舞鶴鎮守府ノ部中美保海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

山陰海軍航空隊

小松航空基地(石川縣小松市)

横須賀鎮守府ノ部中北浦海軍航空隊ノ項ヲ削ル

吳鎮守府ノ部中宇佐海軍航空隊及姫路海軍航空隊ノ項ヲ削ル

佐世保鎮守府ノ部中大村海軍航空隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

秘海軍公報 第五〇一二號 昭和二十年五月十五日

五一七

内令第三九四號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ如キ者

昭和二十年五月五日

海軍大正  
訂正  
日  
官房人機密第三三〇號

「北浦海軍航空隊」、「鹿島海軍航空隊」、「大井海軍航空隊」、「名古屋海軍航空隊」

「第三岡崎海軍航空隊」、「第二河和海軍航空隊」、「大津海軍航空隊」、「大和海軍航空隊」

「峯山海軍航空隊」、「鈴鹿海軍航空隊」、「姫路海軍航空隊」、「觀音寺海軍航空隊」、「西條海軍航空隊」

「福山海軍航空隊」、「德島海軍航空隊」、「高知海軍航空隊」、「大村海軍航空隊」、「大村海軍航空隊」、「大村海軍航空隊」、「大村海軍航空隊」

「博多海軍航空隊」、「築城海軍航空隊」、「宇佐海軍航空隊」、「諫早海軍航空隊」、「大草海軍航空隊」、「岩國海軍航空隊」

「豐橋海軍航空隊」、「釜山海軍航空隊」、「光州海軍航空隊」、「青島海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

内令第三九五號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所屬事項

左ノ通改正ス

昭和二十年五月五日

百里原海軍航空隊等ノ部中「名古屋海軍航空隊、第三岡崎海軍航空隊、大和海軍航空隊、西條海軍航空隊、博多海軍航空隊、築城海軍航空隊、宇佐海軍航空隊、大村海軍航空隊、諫早海軍航空隊、大草海軍航空隊、岩國海軍航空隊、及「釜山海軍航空隊、光州海軍航空隊」ヲ削ル

官房人機密第三三〇號

本年五月五日現在左記上欄ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモ

航空隊、大和海軍航空隊、峯山海軍航空隊、觀音寺海軍航空隊、姫路海軍航空隊、西條海軍航空隊、博多海軍航空隊、築城海軍航空隊、宇佐海軍航空隊、大村海軍航空隊、諫早海軍航空隊、岩國海軍航空隊、及「釜山海軍航空隊、光州海軍航空隊」ヲ削ル

「豐橋海軍航空隊」、「」ヲ削ル

鹿島海軍航空隊等ノ部及大井海軍航空隊等ノ部ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

官房軍機密第四四六號

特設海軍燃料廠補給部ニ工員ヲ置ク

前項ノ工員ニ付テハ海軍工員規則ヲ準ル

昭和二十年四月二十日

海軍大臣

官房軍第二五八號

當分ノ間横須賀海軍砲術學校長ハ同校ノ分校ニ配屬ノ首席兵科

將校ヲシテ所轄長ニ準ジ當該分校ニ在校スル者ノ身上ヲ取扱ハ

シムルコトヲ得

昭和二十年四月二十五日

海軍大臣

官房人機密第三三〇號

本年五月五日現在左記上欄ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモ

ノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年五月五日

海軍大臣

記

第十二聯合航空隊司令部	第十二航空隊司令部
第十三聯合航空隊司令部	第十三航空隊司令部

官房需機密第一六四號

大東亞戰爭中艦船部隊其ノ他各部ニ於テ所管又ハ所屬兵備品會計官吏ヨリ艦營需品ヲ受入ルル進ナキ場合ハ艦營需品經理規程第五條ノ規定ニ拘ラズ當該艦營需品定額表定數ノ範圍内ニ於テ之ヲ直接購買スルコトヲ得

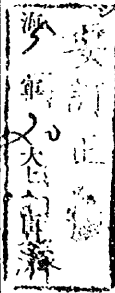
此ノ場合ニ於テハ兵備品會計規程第二十二條ノ規定ニ依ルノ外直ニ艦營需品經理規程書式第八號ニ依リ所管又ハ所屬海軍需品部ヲ經テ海軍省軍需局ニ通報スベシ

昭和二十年五月十三日

官房經機密第三〇三號

海軍軍人軍屬俸給家族下渡規則第十八條ノ二ニ依リ家族ニ俸給等ヲ下渡スベキ廳ヲ左ノ通指定ス

昭和二十年五月十三日



秘海軍公報 第五〇二二號 昭和二十年五月十五日

海軍大臣

一 左ノ地域ニ在ル部隊其ノ他ノ各部

ソロモン諸島

ニューギニア及其ノ附近ノ島嶼

ニューブリテン島及其ノ附近ノ島嶼

フィリピン

アンダマン諸島

南洋群島

小笠原諸島

沖繩諸島

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)

○ 通 牒

軍務一機密第三六六號

昭和二十年五月十三日

海軍省軍務局長

各鎮守府參謀長  
海軍艦政本部總務部長 殿

艦艇特務艦艇製造工事概括表等ニ關スル件通知

艦艇特務艦艇ノ起工、進水及引渡ノ報告竝ニ其ノ豫定ニ關シテハ艦船造修規則ノ規定ニ拘ラズ當分ノ間左記ニ依ルコトニ定メラレ候

記

一 工事概括表調製手續ヲ省略ス

五一九

二 起工ヲ了シタルトキハ海軍工廠長又ハ部外製造所長ハ書類ヲ以テ速ニ海軍大臣及鎮守府司令長官ニ報告スルモノトス  
三 進水ヲ了シタルトキハ海軍工廠長ハ電報、部外製造所長ハ書類ヲ以テ速ニ海軍大臣及鎮守府司令長官ニ報告スルモノトス

四 引渡期日ハ豫メ海軍大臣ノ認可ヲ受クルモノトス  
五 引渡ヲ了シタルトキハ海軍工廠長又ハ部外製造所長ハ海軍大臣ニ電報スルト共ニ鎮守府司令長官ニ報告(部外製造所長ハ電報)スルモノトス

海人一第九號ノ二六

昭和二十年五月十二日

海軍省人事局

部内各廳御中

現役海軍士官名簿電報符付與ノ件通知

五月一日特務士官ヨリ任用セラレタル兵科、主計科及看護科士官ニ對スル電報符ヲ左記ノ通定メラレ候

記

海軍少佐渡辺慶太郎ヲ「三六三五ノ二」、海軍主計少佐山本政治ヲ「三六三六ノ二」、海軍衛生少佐安藤廣雄ヲ「三四」トシ各任用順序ニ從ヒ順次相當番號ヲ付與ス

海人三機密第二號ノ六三

昭和二十年五月十三日

關係各廳長殿

海軍省人事局長

陸軍召集規則ノ改正ニ伴フ海軍要員ノ確保等ニ關スル件通牒

今般陸軍省令第十九號ヲ以テ陸軍召集規則中改正セラレ徵兵終決處分ヲ經ザル第二國民兵ハ全面的ニ隨時召集シ得ルコトト爲リタルニ付首題ノ件ニ關シ海軍大臣ヨリ別紙甲號ノ通照會セラレタル處別紙乙號ノ通回答有之候條了知相成度  
追テ徵兵終決處分ヲ經ザル第二國民兵ニシテ現ニ海軍軍屬トシテ海軍各部ニ勤務中ノ者ニ對シ現地陸軍指揮官等ニ於テ大幅ノ召集ヲ實施セラルルコトモアルベク之方爲ニ各部ノ任務遂行上重大ナル支障ヲ生ズル虞アリト認メタル場合ハ其ノ都度速ニ當局宛事情通報ノコトニ取計相成度

(別紙甲號)

官房人第一八四號

昭和二十年三月三十日

海軍大臣

陸軍大臣殿

陸軍召集規則中改正ノ件回答

陸普第五六〇號ヲ以テ來照ノ首題ノ件異存無之但シ本改正ニ伴ヒ左記ノ通措置相成度

記

一 徵兵終決處分ヲ經ザル第二國民兵ハ陸軍ニ召集セララルル迄



ハ海軍ノ軍人、學生、生徒及豫備員候補者ノ採用並ニ軍屬ノ採用ニ付テハ從前ト變リナキモノトス

二 徵兵終決處分ヲ經ザル第二國民兵、全面的又ハ大部分ノ召集實施ノ爲志願ニ依ル海軍ノ軍人、學生、生徒及豫備員候補者ノ採用(徵募)困難ナルニ至ルベキトキハ右要員中海軍ニ於テ必要トスルモノハ協議ニ基キ之ヲ海軍ニ割當召集スルト

前項ノ割當ニハ成ル可ク海軍ヲ志願スル者ヲ優先充當スル如ク考慮スルモノトス

三 徵兵終決處分ヲ經ザル第二國民兵ニシテ現ニ海軍軍屬トシテ海軍各部ニ勤務中ノモノヲ召集セントスル場合ハ豫メ現地陸海軍關係者又ハ陸海軍省ニ於テ協議シ海軍ニ於テ必要トスル要員ハ之ヲ海軍部隊ニ召集スル如クスルモノトス

(別紙乙號)

陸密第二〇〇一號

昭和二十年四月二十二日

陸軍次官

海軍次官殿

海軍軍屬タル徵兵終決處分未濟者ノ召集ニ關スル件通牒

昭和二十年三月三十日附官房人第一八四號陸軍召集規則中改正ノ件回答中左記第一及第二號ニ就テハ異存無之第三號ノ件ニ關

シテハ別途考慮致スコトトシ取敢ス兵役法施行規則第五十條ノ四ノ地域ニ限定致シ度依命通牒ス

經給第八五號

昭和二十年五月十三日

關係各廳長殿

俸給家族下渡實施細目ノ件中改正ノ件通牒

昭和十九年經給第一一四號中左ノ通改正致候

十八 昭和二十年五月一日ヨリ施行ノ規則第十五條ノ二ノ改正規定ノ實施ハ海軍公報又ハ鎮守府公報ニ於ケル同年五月一日

附任官、進級、増俸ノ辭令ノ分ヨリ開始スルコト

尙同年四月三十日附以前ノ辭令ノ分ニ付テハ情況許ス限前項ニ準ジ處理スルコト

十九 規則第十八條ノ二ノ規定ニ依ル下渡ニ付テハ本人ノ官

(等級、給料及報酬ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ當該家族ノ現

住所判明セザルトキハ之ヲ判明シタルトキヨリ昭和二十年五

月一日以後ノ分ヲ下渡スコト又扶養家族員數又ハ軍屬ノ勤続

年數判明セザルトキハ賞與ニ在リテハ扶養家族ナキ者ニ付定

ムル額ヲ下渡シ臨時家族手當又ハ軍屬ノ勤続手當ノ下渡ハ爲

サザルコトトシ之ヲ判明シタルトキヨリ昭和二十年五月一日

以後ノ正當支給額ヲ下渡スコト

本人ノ官氏名又ハ當該家族ノ現住所判明セザルモノニ付テハ

當該廳、人事局、人事部、地方人事部又ハ本人ノ本籍地ノ市



區町村長等ニ調査ヲ照會スル等適切ナル手段ヲ講シ家族ノ生計ニ困難ヲ來サシメザル如ク考慮スルコト

○雜 款

○部隊移轉

部 隊 名	移 轉 先	移 轉 月 日	記 事
第三十二設營	長野縣伊那郡川路村	五月三日	郵便物發送先 長野縣伊那郡川路郵便局 氣付ウ五〇三
第三十二設營	横須賀施設部教導設營班内	五月八日	旅行願路 省線横濱驛ニテ神中線 (相模鐵道)ニ乗換ヘ相模 大塚驛下車徒歩約五分但 シ東京新宿方面及大船以 西ヨリノ旅行ハ東京急行 電鐵江ノ島線ニ依リ大和 驛ニテ神中線ニ乗換ヘ相 模大塚驛下車ヲ捷路トス 郵便物發送先 神奈川縣大和郵便局氣付 大倉部隊 (郡名ハ特ニ記載セザル コト)

○轉勤者赴任先  
當隊ヘノ轉勤者ハ福岡市今宿町(鹿兒島本線博多驛乘換筑肥線今宿驛下車徒歩約十分)ニ向ケ赴任セシメラレ度  
追テ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ士官、候補生、學生、見習尉官ニ在リテハ横須賀市特務士官、准士官、下士官ニ在リテハ在籍鎮守府、警備府所在地トス  
(第九〇一海軍航空隊博多派遣隊)

戰團第三一三飛行隊ハ四月十三日附當航空隊ニ編入セラレタルニ付同飛行隊ヘノ赴任轉勤者ハ左ニ依リ神ノ池航空基地ニ向ケ旅行セシメラレ度  
總武線佐原驛下車以後民營バス(佐原―潮來―鹿島―國末)利用若ハ民船(佐原―大船津)利用、尙徒歩ナレバ潮來經山約六時間ヲ要ス  
(第七二二海軍航空隊)

攻撃第三飛行隊ヘノ轉勤者ハ千葉縣長生郡茂原航空基地(房總東線茂原驛下車)ニ向ケ赴任セシメラレ度  
(第二五二海軍航空隊)

當隊ヘノ轉勤者ハ宮崎縣宮崎市宮崎航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度  
一 日豊線南宮崎驛ニテ宮崎鐵道乘換本郷驛下車  
二 山陰線米子驛ニテ境線乘換大後津驛下車  
(第七六二海軍航空隊)

○本日軍極秘海軍公報第一三三號(乙配付)發行セリ  
配付先

- 關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
- 吳海軍工廠、川棚突擊隊、舟山島、石垣島各警備隊、第三
- 四、三六、一一〇、一一二各震洋隊、關係各學校

○本日海軍公報發行セス